



今年度最後の森林環境教育事業を開催

今年5月から、ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業補助金を活用した事業を行っていますが、1月31日に今年度最後となる講座を開催しました。

講座「森林環境の豊かさとは？」

～生物多様性の重要性～

日時：平成28年1月31日(日) 午前10時～午後3時

場所：桐生自然観察の森 レクチャールーム

講師：下田綾子(東邦大学 講師)

有馬玖瑠美(京都大学 大学院)

参加者：34名

なぜ、多様性が重要なのか

午前中は、東邦大学の下田綾子先生から「なぜ、生態系・種・遺伝子の多様性が重要なのか」というテーマでお話をいただきました。

先生からは「生物多様性がなぜ大切か」ということについて「生態系の多様性」「種の多様性」「遺伝子の多様性」という三つの側面から話をいただきました。

まず、生態系が多様であることの恵みとして、数々のメリットがあること。例えば「調整」という視点では、気候の調整や二酸化炭素の吸着など環境の緩衝・浄化作用があり、「供給」という視点では私たちが生きていくために欠かせない食料・材料・

資源を提供してくれ、「文化」という視点からは伝統や祭事、観光など文化・伝統・教育といった面で私たちに欠かせないものであることを具体例とともに紹介していただきました。

種の多様性では、地球の歴史から見たら現在は植物が海から陸に上がって間もないにもかかわらず、被子植物が花という構造を獲得し、最も多様化している状況やその種子生産の要である受粉について、送粉昆虫(ポリネーター)と植物の関係を軸に、興味深いお話をいただきました。

そして、最後の遺伝的多様性では、大部分の被子植物が手間のかかる有性生殖である両性花(おしべとめしべを持つ花)をつけるのは、突然変異も含めて遺伝子の多様性を高めるためであり、変わり続ける環境の中で生き残るために遺伝的多様性を持っていなければならない。カッコソウの異型花柱も自殖を避けるメカニズムの一つであると、短い時間の中に非常に多くの情報を詰め込みつつ、とてもわかりやすくお話しいただき、「納得の2時間」でした。

絶滅危惧植物カッコソウの保全遺伝学的研究



お昼休みを挟んで、午後1時から有馬玖瑠美さんがご本人の修士論文のテーマ

としたカッコソウの遺伝子解析結果について発表してくれました。

有馬さんは、平成26年を中心に鳴神山に入り、カッコソウの標本採取や環境調査を行っています。

有馬さんはまず、カッコソウの基本的な特性について解説したあと、遺伝子解析の結果について詳細に解説を行いました。(裏面に続く)

採取した葉のサンプルから、変異しやすい「マイクロサテライト遺伝子」という部分に着目し解析した結果、遺伝子的に見た場合、わずか30種類しかないこと。また、種子を解析した結果、繁殖の点では母親となる株が短花柱花の場合すべての種子が自殖由来（自家受粉）であり、長花柱花の場合は多くが他殖由来であることなどが報告されました。

まとめとして、自生地を孤立させないことや長花柱花と短花柱花が生育しているエリアを優先的に保護すべきだが、それと同時に鳴神山の豊かな自然を守ることがカッコソウの保全につながると締めくくりました。

◆ ◆ ◆ 事務局から(新年度事業について) ◆ ◆ ◆

カッコソウ協議会も3年目になります。まだまだ手探りの状態で進めているところですが、皆様のご協力をいただきながら、カッコソウを保全する上での課題等も少しずつ明確になってきたのではないかと考えています。ぜひ、来年度も皆様からたくさんの意見や協力をいただきながら、カッコソウがこの地域の自然の中でこの先ずっと生育していけるよう活動を続けていきたいと思います！

平成27年度は、桐生信用金庫店舗での展示や森林環境学習事業の開催など、多くの啓発活動を行う

●● 桐生信用金庫との連携について ●●

桐生信用金庫と進めている連携事業のひとつである、カッコソウ定期預金は2月中旬には完売したとのこと。賛同してくださる方がたくさんいたということであり、大変ありがたいことだと考えています。また、カッコソウについてもチラシの裏面に掲載していただくなど、その啓発効果は大きかったと思います。

来年度には、連携している企業の皆さんにもカッコソウについて知っていただくということから、桐生信用金庫の方を対象とした自然観察会を春に実施する予定です。裾野を広げることで、もっとも地域の皆様からのカッコソウへの興味のみならず地域の自然への関心を高めていけると考えています。

ことができました。毎年全ての事業に重点を置くことが難しいことから、年度ごとに実施事業を検討しています。

■ 系統保存

平成28年度は、これまでの調査や研究結果から、系統保存について早急に実施する必要性が見えてきたことから、系統保存の実施に向け調査部会で計画の策定から実施までを行いたいと考えています。系統保存については、一つの移植地のみや協議会のみでの実施が困難であることが予想されるため、様々な機関の協力を要請しながら実施していききたいと考えています。

■ シカ等の食害

桐生市が行っている今年度の哺乳類の調査で、シカの確認件数が他種に比べ多いことから、今後もその影響が拡大することが予測されます。新年度では、カッコソウの系統保存と同時に、シカ等の食害対策も検討していきたいと考えています。シカの食害が拡大すると植生のみならず昆虫類も減少するとの研究もあり、地域の自然を考える上で、大きな問題であることから、今後も生息状況の把握や植生の変化にも注視していく必要があります。

■ 移植地公開など

4月15日から5月15日まで、みどり市で「花と緑のぐんまづくり 2016 in みどり」が開催されます。本協議会の会員である小平サクラソウの会、群馬県環境アドバイザー桐生・みどり支部も協力し、カッコソウの移植地等を公開する予定とのことです。



各団体が管理している移植地でも、春に向け、手入れを進めています。

今年もたくさんの花が見られるのではと、今からとても楽しみです。

4月～5月は、カッコソウが花を咲かせる時期です。また、パトロールや啓発活動等も実施を予定していますので、皆様と力を合わせ今年も活動をしていきたいと考えています。よろしく申し上げます。